

## 無症候性高尿酸血症の治療

## 3) 糖尿病の合併について

## Complication of diabetes mellitus

中国汕頭大学医学院第一附属医院内科

Jidong Cheng 程 継東

兵庫医科大学健康医学クリニック 院長

Tetsuya Yamamoto 山本 徹也

## Key Words

高尿酸血症,  
糖尿病,  
治療

## Summary

高尿酸血症と糖尿病の関連は多くの報告により、よく知られるようになってきたがその詳細はまだ明らかではない。糖尿病の初期では高インスリン血症により、近位尿細管での尿酸の再吸収が亢進し、結果として尿酸の排泄が低下して、血清尿酸値が上昇するといわれている。一方、糖尿病が悪化した場合、高血糖に伴う糸球体濾過量の増加と尿糖に伴う尿酸再吸収の低下により、血清尿酸値が低下するといわれている。また高尿酸血症が糖尿病を惹起する可能性も疫学研究や基礎研究から示唆されている。*in vivo*および*in vitro*の研究では高濃度の尿酸はインスリンの分泌の抑制とインスリン抵抗性を惹起することが示唆されたが、高尿酸血症にこのような作用があるのかヒトにおいてさらなる検討が必要であると思われる。

## 1 無症候性高尿酸血症と糖尿病

食生活の欧米化など生活習慣の変化に伴い、高尿酸血症患者は年々増加傾向にあり、現在無症候性高尿酸血症の人は約1,000万人いるといわれ、そのうちインスリン抵抗を合併する患者数は200万人を超えていると推計されている<sup>1)</sup>。高尿酸血症と合併することの多いメタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病と尿酸の関連に注目され、その発症機序について多くのエビデンスが蓄積されている。高尿酸血症・痛風を「ぜいたく病」とみる向きもあるが、実際には糖尿病と同じように遺伝的素因が基礎にあり、過食や過剰の飲酒、運動不足、それによる肥満、精神的ストレスなど、いくつかの要素が重なって発症する<sup>2)</sup>。高尿酸血症と糖尿病の病態に共通する発症基盤としてインスリン抵抗性についての研究も進み、各病態また病理の関連性について解明されつつあり、高尿酸血症と糖尿病のみを考慮するのではなく、生活習慣病全体の枠組みのなかで理解することが重要である<sup>3)</sup>。

高尿酸血症を治療することは糖尿病の予防・治療に